

令和6年度学校・家庭・地域連携総合推進事業 目標シート

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	昨年度の数値	単位数	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)	
仙北市	①学校運営上の課題	02 社会に開かれた教育課程への対応	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域の連携・協働により行う子どもたちの豊かな学びについて、地域の情報が不足しているため、地域人材との連携や地域の受入先確保が教職員にとって課題であり、負担感を感じる要因となっている。併せて、教職員の協働活動への理解不足も課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域の連携・協働の体制を構築するため、地域学校協働本部を市内6小学校5中学校に設置し、推進員27名を委嘱している。併せて教職員向けの研修を各校で実施し理解を深めてもらう取組を行ってきた。 学校、教職員、推進員の定期的なコミュニケーションの機会を設けるよう各小中学校へ働きかけを行ってきた。定期的に打合せを行っている学校では、地域との連携・協働による多様な活動が広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校、教職員、推進員の定期的なコミュニケーションの機会を設けている学校では、地域との連携・協働による多様な活動が広がっている。今後の継続に向けて、生涯学習課・公民館でサポートを行っていく。併せて定期的な打合せを行っていない学校へは、地域とのコミュニケーションを図ることのメリットや成果を伝えながら、地域や推進員との関わりや充実に向けた取組を行っていく。 広報等を活用し、地域へ協働活動の周知や理解促進を図り、学校や子どもたちと関わる機会への参加を促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域・学校の連携・協働による活動を通して、子どもたちの学びを充実させ地域に対する愛着や誇りに思う気持ちを醸成する。それとともに地域のネットワークづくりを促進し、元気な地域づくりにつなげていく。 協働活動の推進・充実のため教職員に対する研修等の実施と、学校と推進員のコミュニケーション機会の実施・充実にも努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 協働活動に参加する地域ボランティアの人数を活動の実施や充実度を図る指標とする。 	249	人	300	296	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職については、年度当初に生涯学習課や公民館、統括推進員で学校訪問を行い、地域学校協働活動に対する打合せ等を行ったが、その内容等が学級担任まで伝わらなかった学校があった。また、市外の学校から新たに赴任した職員を含め、全員に渡してある「地域学校協働本部事業マニュアル」を読んでいる職員もいた。 そこで、「令和7年度教職員の集い」(市内の学校職員が全員参加)の場で、各校で行われている協働活動を紹介したり、地域学校協働活動推進員を紹介したりしながら研修を行う予定である。
仙北市	②学校と地域の課題	05 その他	<ul style="list-style-type: none"> 当市の地域課題として、人口減少・少子高齢化があげられる。中でも若者の定住を進め社会減を食い止めることや少子化の中で適正な教育環境を確保することが課題となっている。子どもたちがふるさとに愛着や誇りをもてるような学習・体験活動の充実や子どもたちの学校環境や教育活動に学校・家庭・地域がそれぞれの立場で関心を持って関わる機会の充実が求められ、施策が講じられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 当市ではコミュニティ・スクールを令和7年度まで段階的に導入を進める計画である。協働活動では各学校で特色のある活動が行われている。子どもの学びを充実させ元気な地域づくりを進めるために、熟議等を通して学校・家庭・地域が意見を交わし目標やビジョンを共有している。 当市教育委員会では「ヤマメ・サクラマスプロジェクト」として地域を支える人材としての子どもたちの育成を地域住民の協力を得ながら進めている。また、少子化が進む中で適正な子どもの教育環境を確保するための「学校適正配置」に向け住民が参加しての意見交換が進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度までのコミュニティ・スクールの導入や協働活動の充実のために熟議等を通じた学校・家庭・地域が集まる意見交換、意見集約を継続的に行っていく。子どもの学びの充実と元気な地域づくりを実現していくためにも、子どもの学びに対する地域住民の関心を高め、参画する雰囲気や醸成していく工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地域の多様な立場の人が集まる熟議等の意見交換の機会を継続的に設けること。 子どもの学びに対する地域住民の関心を高め、熟議等の意見交換の機会への参加を促すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 熟議等の意見交換の機会への参加人数を子どもの学びに対する地域住民の関心の高さを図る指標とする。 	328	人	350	388	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生や小学校高学年の児童が参加する熟議を行い、子どもたちが地域についてどのような考えを持っているかを、地域の方々に知らせるとともに、子どもたちに地域の方々がどのような考えで生活しているかを知らせる機会とした。 また、学校では、熟議に参加して子どもたちに話をしてもらいたい方、話を聞いてもらいたい方の選定に、学校運営協議会の委員の方々や地域学校協働活動の推進員の方々の意見を聞いたり、誘っていただいたりした。 参加した多くの方々からは、熟議について、学校や子どもたちの話、地域の方の考えを聞くことができてよい機会であったこと、楽しい雰囲気話しかえたことから参加してよかったという感想ももっていた。 今後さらに参加者を増やしていくこと、地域の声を聞くことを目指して、熟議の趣旨や雰囲気等について多くの方に知っていただくことが必要と考える。そのために、広報活動を充実する必要がある。熟議のこれまでの話合いの様子や成果等を知らせていく活動を行う。